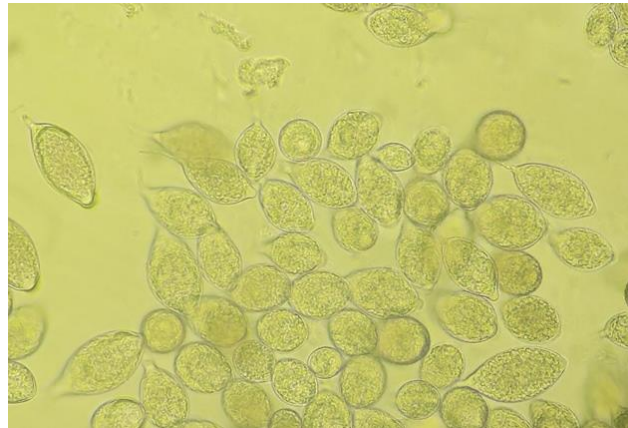
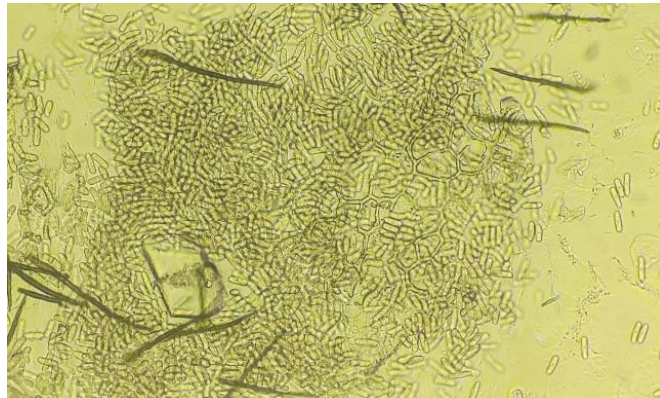


カボチャ果実の病害

1. カボチャ疫病：初めは白色で、進展すると灰色ビロード状の菌叢が果実を覆い、軟化腐敗します。菌叢を検鏡するとレモン型の遊走子のうが密に形成されています。茎葉にも発生し、被害残さの中の菌糸や卵孢子で越冬します。病原菌は卵菌類フィトフトラ・カプシキー。



2. カボチャ炭疽病：やや凹んだ黒色の病斑で、分生子が多数形成されると同心輪紋状に見えます。病斑上には長楕円形の分生子と、黒褐色の剛毛が形成されます。病原菌は子のう菌類コレトリウム・カプシキー。



3. カボチャ軟腐病：花や幼果に発生する病害ですが、疫病の病斑上に混発しています。黄白色の菌叢を生じ、太く長く立ち上がった菌糸の先端が奇妙に枝分かれして、胞子のう胞子を形成します。被害果中の接合胞子で越冬すると考えられます。軟腐病という病名ですが、病原菌は細菌類の軟腐病菌エルヴィニア・カロトボーラではなく、接合菌類コアネフォロイデア・カカービタエです。

